



UQ-KU Project

九州大学 研究教育交流拠点

UQ-KU Project Newsletter

2020年12月

COVID-19 版

クイーンズランド大学・九州大学研究教育交流プロジェクト

UQ-KU プロジェクトニュースレター COVID-19 版

COVID-19 による大混乱

今年は過去に類を見ないほど大学教員たちを苦しめた年となりました。新型コロナウイルス感染症（SARS-COV-2 又は COVID-19）は世界中で大混乱に陥れました。世界中の政府が実施するように、現時点での新型コロナウイルス感染拡大防

止の最も効果的な方法は、人と人との接触制限、及びロックダウンです。これにより、授業をオンラインへ移行せざるを得ないという、教員共通の課題が生まれました。この一年間で私たちは、Zoom や Teams の扱い、短編の映像教材作成、できる限り最高のオンライン学習環境の提供に関し、専門家となりました。そして、学生を第一に、彼らのために最善を尽く

しました。皆さん、本当にお疲れさまでした。

海外旅行も今は懐かしいコロナ禍前のものとなり、UQ と KU の学生に愛され、好評であった二つのツアーも敢行することは叶いませんでした。先ず中止されたのは、クイーンズランド大生が九州大学を訪れる研修プログラム、UQ-JPIE でした。

同様に、毎年好評の Q²PEC 参加に向けた、九州大生によるクイーンズランド大学及びブリスベン訪問も中止されました。幸い、クイーンズランド大学附属英語学校（ICTE）は英語コースをオンラインへ移行し、14 人の九州大学生を迎えることが



2020年Q²PEC オンライン工学講義ひとコマのスクリーンショット

出来ました。加えて、それぞれの分野の専門家であるクイーンズランド大学研究

Q²PEC がオンラインへ！
Q²PEC オンライン 2020

Q²PEC (Qshu-Queensland Programme for English Communication)と呼ばれる、毎年8・9月に行われる5週間のプログラムに参加するため、過去6年の間に30名の九州大学工学部の学生がクイーンズランド大学を訪れました。プログラム中、学生たちはICTEで英語を学び、野北教授コーディネートによる講義で工学の様々な知識を深め、現場視察やワークショップに参加し、キャンパスでUQの学生と親睦を深め、現地のホストファミリーと過ごし、ブリスベンや周辺エリアを満喫します。

残念ながら、今年は例年通りにはいきませんでした。新型コロナウイルスによって状況は一変。九州大学としてもどう対応するべきか当惑しておりました。プログラムを全て中止するべきか、あるいは、UQとICTEが提供するオンラインプログラムを利用し、ICTEの英語教師によるクラスに参加することで、少なくとも学生たちが英語力を磨ける場を確保し、工学に関してはUQのオンライン講義に参加し、知識を深められる機会を設けるべきなのか。学内で検討を重ねた結果、後者の選択肢Q²PECのオンライン開催を決定しました。

どれだけ優れたオンラインプログラムであっても、実際の留学に勝るものはありません。しかしながら、ICTEの職員や講師の皆さんのお力添えをいただき、学生たちは週5回、午前中に行われるオンラインクラスを通して、英語力を向上する機会を得ることが出来ました。午後には様々なオンライン上のアクティビティを通してUQの学生と親睦を深めました。5週目と最終週には、野北教授にご調整いただいた、UQ工学部メンバーによる工学に関するセッション会に参加しました。すべてのセッションにおいて見られた学生たちの高いモチベーションや積極性には感銘を受けました。

プログラム終了後、学生たちからはオンライン版Q²PECは非常に充実しており、楽しみながらも多くのことを学んだとの声が届きました。

オンラインプログラムは、留学プログラムに取って代わることはできませんが、組み合わせれば素晴らしい付加価値となります。今回の工学セッション会の開催にあたりご尽力いただいた、野北教授、NS CMEMのメンバーの皆さん、David Mee 名誉教授、Lianzhou Wang 教授、Jin Zou 教授、Stuart McDonald 上級研究員、Chris James 研究員、Jung Ho Yun 研究員、Xin Fu Tan 研究員には心から感謝申し上げます。

ありがとうございます！

許斐ナターリー准教授
Q²PEC コーディネーター、九州大学

員が工学をテーマとしたプレゼンテーション会を行いました。

本ニュースレター掲載の学生による振り返りの通り、オンライン版Q²PECは九州大生にとって貴重な体験となりました。

クイーンズランド大学ゲスト講義シリーズ

コロナ禍にありながらも、クイーンズランド大学のスタッフメンバーによるゲスト講義シリーズはオンラインを織り交ぜたハイブリッドモードで行われました。

野北和宏教授は九州大学の工学修士課程の学生に向け英語でエネルギー素材に関する講義を、Jonathan Read氏は工学、応用機能を学ぶ3年生の海外にいる学生たちに向け工学理論に関する講義をオンラインで行いました。

UQ-KU 教育フォーラム 2020 コロナ時代での効果的な教育

2019年12月に九州大学はEMIを通してSTEM教育における新たな教育法に関するワークショップを主催され、クイーンズランド大学と九州大学の教育関係者間が意見を交わす素晴らしい機会となりました。

ワークショップは好評につき、今年12月10、11日の午後に再開されました。今年のテーマが「コロナ時代での効果的な教育」であったことは驚きではないでしょう。

ズーム講義での学生の積極性を引き出す方法から、学生の学習体験の質向上を目的としたブレンド型学習及びデジタルプラットフォームの使用まで、今回もまた、素晴らしいアイデア交換の場となりました。

教育パラダイムもさることながら、James Cameron 准教授はこれまで学生や教育者が大学生活の一環として当たり前前に捉えてきた社会的な交流がコロナ禍で不足していることについて、解決策を提供しました。

UQ-KU 教育フォーラム 2020 のプログラムの詳細はこのニュースレターの最後に掲載されています。

UQ-KU プロジェクト 2021

困難にあふれた本年でしたが、年の瀬を迎える今、私たちは急速に変化する状況に対応できたことを誇りに思うべきです。私たちは学生の安全と教育を守ることを第一に、彼らのために全力を尽くしてきました。

先の見えない状況が続く中、UQ-KU プロジェクトの中心となるプログラムのいくつかは2021年の実行が叶わない可能性があります。

しかし、これまで例を見ない困難を乗り越え、今やっとトンネルの先に光が見えてきたことは幸いです。新年はわずか数週間先に迫っています。2021年がより良い年となることは我々全員の願いであることでしょう。

皆さん、良いお年をお迎えください！

Q²PEC オンライン 2020 : 更なる勉強へのチベーション

英語に関しては忘れられない思い出があります。高校生時代のある朝、私はバス停に立っていたところ、私は2人の外国の方に話しかけられました。彼らは目的地に行く方法を訪ねたかったようです。彼らが伝えたかったことはしっかり理解できました。当時、私は英語には自信がありました。英語のテストでは好成績を収めていましたし、英語は好きな科目の一つでした。しかし、日本語が通じない方に話しかけられたという事実で圧倒され、これまで何年も英語を勉強してきたのにもかかわらず、結局、たった1文のシンプルな返答をするまでに長い時間がかかってしまいました。

正直、私は海外へ行った経験がありませんでしたから、それまで自分の英語の実力が分かっていませんでした。以降、英語のスピーキング能力を向上させたいと思うようになりました。しかし、新型コロナウイルスを取り巻く状況により、留学の目途は立ちません。また、夏休み中予定はありませんでしたので、Q²PEC オンライン 2020 に参加することにしました。

九州大学の日本人の同級生たちは非常にシャイであり英語を話しません。ですから、このオンラインクラスに参加するほとんどの学生が日本人であると分かったとき、不安を感じました。しかし、UQ 英語クラスの学生はモチベーションに溢れ、英語力の向上に熱心でした。彼らは積極的で、日本語は一切話しませんでした。彼らに触発された私は、なるべく多く話そうと努めました。たくさんの刺激的な会話や議論をしたのを覚えています。もちろん、素晴らしい先生方にも恵まれました。授業を盛り上げてくださったり、多くのアドバイスをいただいたりもしました。全ての授業が楽しく、時間はあっという間に過ぎていきました。毎日の2時間がこんなに早く終わっていくのには驚きました。

クラスではモチベーションが高められただけではなく、私に気付きをもたらしてくれました。例えば、私は日本語で英語を学んできましたが、英語は英語で勉強したほうがより効果的だと気付きました。授業中、似た意味を持つ2つの言葉の微妙な違いを理解しなければならないことがありましたが、この場合、日英辞書より英英辞書の方がより理解が深まります。また、私は話していることに対して自信がないとき、ぼそぼそと話してしまう傾向がありました。これに対し、はっきり話さないことによって聞き手にとってはより理解しにくくなってしまふのだと教えていただきました。

授業を通してだいぶ進歩を感じましたが、まだまだ課題は残ります。単語や知識が不足しているため、工学セッションの講義すべてを理解するのは事情に難しいことでした。また、私は通常英語を話す際、考えていることを頭の中で日本語から英語に変換するため、時間がかかってしまいます。加えて、高校時代に比べて英語の文章を読む量が減ったため、英語の読解力も弱まる一方です。私は英語力を向上させたいので、これからもより力を入れて学習を続けていきたいと思っています。

最後になりますが、クラスメートや先生を含む全ての関係者の皆様に感謝を申し上げます。今回のプログラムを通し、私は貴重な機会を得、多くの人に助けられました。どうもありがとうございます。

九州大学

電気工学部

Marie Tachibana

UQ への紹介

皆さん、こんにちは。Kenshin Onishi と申します。日本の九州大学の一年生で 2020 年 9 月に ICTE-UQ によってオンラインで提供された一般英語コースに参加しました。

本コース参加の目的は、休暇中に英語力を磨くためです。米国の大学院で学び、NASA またはベンチャーキャピタルで働くことを目標とする僕にとって、流ちょうな英語を話せるようになることは不可欠です。

コースは実りの多いものでした。参加者はとても優しかったです。これほどユニークで明るい先生に出会ったこと



はありませんでしたし、クラスメートも親切で熱心でした。クラスは日本人 15 名と中国人 1 名で構成され、多様性に欠ける気がしましたが、選択授業の一つである UQ ワークショップですぐに私が求めていた多様性に出会うことが出来ました。ほとんどの参加者が中国人であり、彼らの高い英語力は驚くべきものでした。英語だけではなく、お互いの母語（私は中国語も学んでいます）でも会話できたことは嬉しかったです。ここでは英語の自習法を学び、特にリーディングのコツを得られたことは大きな収穫となりました。私は以前まで辞書を片手に英語の本を読んでいましたが、分からない単語を文脈から推測する方法を知りました。これにより、今までよりも早く、効率的に読書が出来るようになりました。

また、別の選択プログラムにも参加しました。これは、九州大学を卒業され、現在 UQ で教壇に立たれている野北教授がコーディネートされた UQ 研究者による工学セッションです。

極超音速、水素貯蔵、ナノマテリアルなど、授業で扱われた最先端トピックは多岐に渡ります。このセッションを通して私は興味の幅が広がったことを感じました。Chris James 研究員の極超音速に関する講義は私が将来学びたいことに近いため、一番興味深かったのですが、社会への強力な潜在的影響力を持つナノマテリアルにも魅力を感じました。また、セッションの

中で、UQ の施設や先生方がどれだけ素晴らしいかを知ることも出来ました。

UQ を訪れた際はぜひ、空力現象や大気圏再突入実験に利用されるエクспанションチューブなどの装置で実験を試みたいと思います。そして、美しいキャンパスで直に授業に参加することを楽しみにしています。UQ 訪問が待ちきれません。その時まで、引き続き勉強を頑張ります。

本当にありがとうございました！

九州大学

工学部 航空宇宙工学科

Kenshin Onishi

詳細はこちらをご覧ください

<http://www.mechmining.uq.edu.au/uq-ku-project>

UQ-KU 教育フォーラム 2020 年

UQ-KU Education Forum 2020

– Teaching effectively in the time of COVID-19 –

Program

DAY 1: December 10th (Thu) 1400-1600 AEST/1300-1500 JST (Zoom)

MC: A/Prof. Natalie Konomi

- Welcome A/Prof. Natalie Konomi, KU (5 min)
- Greetings Prof. Yoshimi Sonoda, Dean, Faculty of Engineering, KU (5 min)
- Moving towards a learning systems paradigm with and beyond COVID-19
Prof. Satoko Fukahori, KU (15 + 5 min Q&A)
- Responses to COVID-19: evaluation of student performance and issues
Prof. Lydia Kavanagh, UQ (15 + 5 min Q&A)
- Teaching large classes in flexible mode
Dr. Sara Herke, UQ (30 + 10 min Q&A)
- Building a laboratory skills video library for molecular biosciences
A/Prof. Jack Wang, UQ (20 + 5 min Q&A)
- Close/summary A/Prof. James Cannon, KU (5 min)

DAY 2: December 11th (Fri) 1400-1600 AEST/1300-1500 JST (Zoom)

MC: A/Prof. Andrew Robertson

- Welcome A/Prof. Andrew Robertson, KU (5 min)
- UQ-KU Project Prof. Kazuhiro Nogita, UQ (10 min)
- Assessment of Program Level Learning Outcomes
Prof. Satoko Fukahori & Prof. Satoshi Watanabe, KU (30 + 5 min Q&A)
- Teaching laboratories online in physics
Dr. Joel Corney, UQ (20 + 5 min Q&A)
- Teaching Technical Subjects Online
A/Prof. James Cannon, KU (20 + 5 min Q&A)
- Opportunities for collaboration
Moderator, A/Prof. James Cannon, KU (15 min)
- Close/summary Prof. Lydia Kavanagh, UQ (5 min)